

■動く図書館の今後の方針について

読書の振興をめざして運行開始から 75 年を迎えた動く図書館が、引き続き市民の読書環境の維持向上のために役立つものであり続けるために、次代に合わせたサービス内容の可能性等を検討するものです。

1. 動く図書館の現状

(1) 目的・意義

最寄りの図書館からの距離が遠いエリアに出向き、本棚から本を選ぶ楽しさ、読書に親しむ機会を届ける。

(2) 主要サービス

①各ステーションへの巡回

4 週間に 1 回ずつ。1 回あたりの滞在時間 20 分～2 時間

休日の運行は土曜日のみ（ひと月で 2 回、2 か所）

②あおぞらおはなし会

ステーションでの絵本の読み聞かせ等。ほとんどのステーションで年 1 回実施。

③施設巡回サービス（既存館の利用が困難な方々への支援）

豊中支援学校、児童発達支援センターへの巡回 4 週間に 1 回程度。

年 1 回お話し会も実施

(3) ステーションごとの利用者数等の推移（別紙 1～2 参照）

(4) 現状の主要利用者層（別紙 3 参照）

- 高齢者、子育て世帯

(5) 現時点での評価・課題等

- 全体の傾向として利用者数は伸び悩み、あるいは微減であるが、この傾向は既存図書館の利用者数の推移と比べて、それほど違いがある訳ではない。長年にわたり一定の利用者数を維持している箇所も多い。底堅いニーズは確認でき、動く図書館の基本的な役割、意義は今後においても失われないと思われる。
- 一方、地域によって利用者数が大きく乖離している（既存図書館にも同様の状況が窺われる）。
- 現状では巡回先を一気に大きく増やすこと難しく、またインターネット予約や電子図書の普及、充実など、読書に親しむ環境の選択肢等も広がりつつある。主な運営時間帯が平日昼過ぎであり、新たな利用者層の開拓にも課題を残す。
- 運営時間中、椅子に座ってしばらくの間読書に耽ったり、井戸端会議さながらに立ち話をしたりする利用者の姿が散見され、動く図書館を媒介とした、屋外の居場所、交流拠点としての可能性を感じている。

- ・中央図書館整備に伴う図書館ネットワーク再編も踏まえて、今後の動く図書館の意義、役割等を改めて捉えなおし、サービス内容等の充実により、利用者増、満足度向上につなげる。
- ・また動く図書館の仕組みを今後とも安定的に維持していくためには、動く図書館を利用しない人にもその意義等に共感してもらう取り組みが必要。
- ・動く図書館の車両のリース期限が令和9年1月末。読書に係る機能に加えて、様々な地域課題の解決に資する観点等から更新後の新たな車両にどういった機能を実装すべきか、検討が求められている。

2. 動く図書館のめざすべき今後の方向性（案）

（1）動く図書館が創出する価値

- ①本との出会いを届け、読書に親しむ人を増やす。
- ②読書だけでなく、交流の機会等を通して、暮らしの豊かさを届ける

（2）上記の価値の維持・向上のためのアクション

A 動く図書館に関するアンケート

- ・動く図書館に関する市民認知度等調査案（市LINE登録者へのアンケート）
(別紙4参照)
- ・本市図書館職員アンケート（別紙5参照）
- ・利用者アンケート

B 先進事例把握

C 具体的施策の方向性（可能性検討）

想定する主な利用者層

- ・下記①、②・・・高齢者、子育て世帯
- ・下記③・・・高齢者、子育て世帯も含めた幅広い年代層

①「読書に親しむ人を増やす」視点から

- ステーションの場所に応じた蔵書構成の充実
- きめ細かな巡回のために、従来の大型車両に加え、小型車両の導入の可能性検討。大小車両によるより効果的な新たな巡回パターンの確立
- 司書が出向くことの価値の最大化

②「暮らしの豊かさを届ける」視点から

- 交流機会、居場所としての機能等の拡充
- 読書以外の目的でも立ち寄ってもらえるよう、他のサービス等も提供

③動く図書館のリブランディング

- 動く図書館を市民の財産として、実際には利用しない市民層にもその価値を伝え、共感を得ていく

④その他

○司書職員のキャリア形成の視点から

司書職員の育成に効果的な業務として、少しでも多くの職員が動く図書館の業務を体験できるよう工夫する。

○上記①～②やその他の地域課題の解決等に寄与する視点から、リース更新後の新たな車両や小型車両への具体的な実装機能等の検討